

英語セミナー「研究者のための英文 E メールの書き方とマナー」 実施報告書

【講師】 斎藤 裕紀恵氏（株式会社 Y&S Visionary 代表取締役）

【日時】 平成 29 年 9 月 20 日（水） 13:00～16:00

【場所】 岐阜薬科大学本部 第二講義室

【受講者数】 25 名（うち女性研究者 13 名）

講師に昨年度と同じく斎藤裕紀恵氏（株式会社 Y&S Visionary 代表取締役）を迎え、一般的な英文 E メールの書き方とマナーから、論文投稿時や推薦依頼の際など研究者に必要とされる英文 E メールの書き方について学ぶため、セミナーを開催した。

受講者は岐阜薬科大学 12 名、岐阜大学 9 名、岐阜女子大学 1 名、アピ株式会社 3 名。うち教職員（研究者）19 名、学生 6 名であった。

プログラム

<第 1 部>

一般的な英文 E メールの書き方とマナー

1. 英文 E-mail のフォーマット

①件名の書き方 ②敬称の書き方 ③結語の書き方

2. 基本的な E メール

①自己紹介 E メール ②お礼の E メール ③依頼の E メール

<第 2 部>

研究者としてメールを書く場面

①論文投稿時のメール(査読者とのやり取りなど)

②共同研究者へのメール（英文校正依頼など）

③留学希望時のメール(推薦状の依頼など)

④海外研究出張の際のメール（研究者へ面会の依頼）

<第 3 部>

実践編：PC を使用して課題に沿ってメールを書く



実際の文章、便利な表現、同義語・類義語でも感じが良いほうの単語の選択など、具体例を多く提示して講義していただいた。第 1 部ではお礼をする設定、第 2 部では論文提出前に同僚に査読を依頼するという設定により、実際に文章を書く時間がとられた。書いたものはペアとなったパートナー同士で見せ合い、練習した。

第 3 部ではこれまでの講義を踏まえ、4 つ課題を与えられ、実際に PC を使いメールを作成した。それをパートナーに送り、お互いに返信をする形式で実践した。



<事後アンケートの集計結果より>

良かった点として、実用的な例文を多く挙げてもらえたこと、実践的なメールでのやりとりを講義してもらえたこと、という意見が多く挙げられていた。

良くなかった点として、実践編の時間がもう少しほしかった、実践で書いた文章を添削してもらえるとよかったという意見があった。

レベルおよび開講時間をちょうどよいと回答した者がほとんどであった。また、アンケート回答者の100%が、セミナーが役に立ったと回答し、約95%がまた参加してみたいと回答している。

講師がやりとりした実際のメールを例として使われたこともあり、受講者がこれまで悩んでいた表現方法の正しい使い方、実用的な文章を多く学べたことにより、満足度は高かったと推察する。本セミナーの開講は、研究者育成支援の一環として非常に有益であったと思われる。